



「5月定例会」

5月17日、午前9時、森の家に37名が集合。この日は、山口県森林整備課長の松尾宏治氏の「やまぐち県出前トーク」を聞いた。

わたしたちは「山口森林づくり県民税」として個人500円の税金を払っている。これがどのように使われている

か、また山口県の森林づくりのビジョンなどを聞いた。さくら友の会が補助を受けられるような対象にならないかと言う質問も出たが、今のところ難しいようだ。

話が始まる頃から、激しい雨で、話し声もかき消されるほどだった。さくら友の会発足以来、雨で作業中止になったことは一度もなかったがこの日ばかりは中止になった。会員交流部会担当の美味しいカレーと一緒に食べて解散した。

「6月臨時作業」

6月14日、維持管理部会主体の臨時作業が行われた。17名が参加。この日は主として育ちの悪い木への施肥作業が行われた。

作業の後は、いつものように和やかな雰囲気で、オニギリ弁当を食べながら、今後の計画など話し合った。

「松枯れ防止EM実験」

深坂バイパスの道路沿いに近い17本の松の半数に対して、EM活性液を用いた、松枯れ防止対策を実験して見ることになった。EMと言うのは、嫌気性有効微生物群のことで、植物を活性化させるのに有効とされている。

7月7日第1回目のEMを施用した。



吉野千本桜 研修旅行

4月11日(晴) 大阪南港から、バスは

思ったよりスムーズに、念願の桜の名所吉野山に登っていました。はやる気持ちを抑え、「さくら友の会」の帽子を深めに被り、ガイドさんを先頭に歩き始めると、満開の桜と桜吹雪が見事に私達を、歓迎してくれた。早々に食事を済ませ、格式高い黒門・銅の鳥居・土産物店の突き当たりの国宝仁王門・吉野のシンボル国宝金峰山蔵王堂と歩き、進んで行くとだんだん観光客が混雑してきた。赤い帽子を見失わないように気を配り、土産物店を見ながら吉水神社に着いた。桃山建築が美しく雰囲気の在る神社だった。秀吉が五千人の家来を引き連れて盛大な花見の宴を催した地、一方、義経と静の美しい悲恋物語の舞台、奥深い吉野山には、悲しい歴史の方が、似合っていると思った。見渡しよき境内から望む、一目千本の景色は、中千本、上千本の谷から尾根へと春色に染まった山桜が連なる大迫力に感動し、これぞ吉野桜と大満足した。想像以上に美しく壮観で嬉しかった。元気を貰って如意輪寺に向かった。ハイキングコースを下ると、人波も多少少くなり、谷間で満開の桜も、まだ散らずに咲き誇っていたが、木は余り大きくなかった。最期の階段は、少し息切れしたが、如意輪寺からの景色を望みたく頑張れた。来た道を見下ろすと、まだ多くの人がこちらを目指して登っている姿が見渡せた。境内の斜面には、二千七年全国から寄贈された枝垂れ桜が、所狭しと植樹され花を付けていた。前方の山頂に屋根が見える吉水神社はまるで桜の雲海の上に、そびえているように見えた。復路は集合時間が気に掛かり、足早に下って登ると、観光客が又一段と増えた感じで、道路は人で溢れていたが、ガイドさんが帽子を見つけ小旗を振って声を掛けてくれホッとした。見なかった上千本、奥千本の桜は、どのような表情を見せてくれるのか、心残りで、機会があれば再度訪れたい日本一の桜の名所である。近年三万本の桜の内、約半分が菌類や虫等、何らかの病気にかかっていたり、樹勢の衰え等で危機に陥っている為「吉野の桜を守る会」を設立したと知った。桜の国の桜と悠久の風景を、大切に守り後世に残して欲しいと願いつつ、柿の葉寿司と吉野和紙をお土産に帰途に付いた。楽しく心癒される旅だったが、人の多さと駐車場に溢れるバスにはビックリした。この研修旅行で、学び感じた良いところが。さくら友の会に少しでも反映できれば嬉しい。皆さん、おつかれさま。そして吉野のさくらとお天気に、ありがとう！！

投稿

(会員交流部会 山田 澄枝)

予定

維持管理部会 定例会	8月9日(日) 9時00分
	9月13日(日) 9時00分